ニュースレター

第52号

NPO法人　日本リハビリテーション看護学会
事務局案内
住　所　〒162−0825
東京都新宿区神楽坂4−1−1オザワビル2F
株式会社ワールドプランニング内
ＮＰＯ法人 日本リハビリテーション看護学会
事務センター
電話番号　03(5206)7431　ＦＡＸ　03(5206)7757
E-mail　jrna@worldpl.jp

挨　拶

副理事長　佐藤　啓子（埼玉県総合リハビリテーションセンター）

2020年の年明けと共に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行拡大や、７月の豪雨災害などによりお亡くなりになられた方々、またご遺族の皆様に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災・罹患されている方々に心よりお見舞い申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染拡大により、感染防止に対する日々の対応、自身の感染・他者への感染の危険を感じながら職務にあたられている会員の皆様に敬意を表します。

本会の活動も新型コロナウイルス感染拡大に伴い、参加される皆様の健康と安全に配慮し、2020年11月 21日（土）、22日（日）に開催予定の第 32回学術大会を現地での開催を中止とし、一般演題発表のみ誌上開催（抄録のみ電子配信）とすることとしました。研修会につきましても地方開催などの計画をしておりましたが、開催を中止しております。次年度に向けて、新しい生活様式に配慮した Web等を活用した研修などの検討をしております。会員の皆さまにはホームページ等でご案内いたします。

また、リハビリテーション看護クリニカルラダー・行動チェックについて、第 31回学術大会 (東京大会) では 100名を超える皆様に参加いただき意見交換を行い、その後パブリックコメントもいただきました。ご意見を集約し、10月頃を目途に修正をしたリハビリテーション看護クリニカルラダー・行動チェックをホームページ上で公開できる見込みです。学術大会では、小規模病院では自施設で作成することは困難であるというご意見も多数お聞きしました。是非ご活用ください。

今後も皆様の手に届くような学会を目指して参りますのでよろしくお願いいたします。

回復期リハビリテーション病棟での新型コロナウイルス感染症対策

地方独立行政法人広島市立病院機構　広島市立リハビリテーション病院　看護科　川端直子

リハビリテーション看護では、患者が再び住み慣れた暮らしを取り戻すために、日常生活活動の援助を積極的に行っています。しかし、当たり前に行っていた援助が、2020年の春から新型コロナウイルスの感染拡大によって様変わりしてしまいました。当院においても、同年４月から感染対策本部が立ち上がり、感染対策を強化した入院生活様式に変化していきました。特に食事場面においては、飛沫感染のリスクを考慮し、ソーシャルディ

スタンスを遵守した食堂のレイアウトにしたり（図１）、口腔ケアや洗面に使用する洗面台にパーテーションを作成して設置したりして（図２）、感染対策を行っています。

介助者の感染予防策としては、標準予防策を徹底し、直接患者に触れる機会のあるスタッフは、フェイスシールドを着用して患者の介助に当たっています（図３）。このほか、看護業務の中に環境整備回数を増やし、感染防止対策を強化しました（図４）。当初は慣れない生活様式に戸惑う患者に、スタッフも新しい介助方法に苦慮していました。リハビリスタッフなど多職種で幾度も検討を重ね、新しい介助方法を安全に行うことができるよう取り組んでいます。

図１ 食事テーブルのレイアウト

図２ 洗面台のパーテーション

図３ 食事介助中の感染対策

生活様式が変化する中でも、患者にとってストレスフルになったのが、面会制限でした。県内感染発生早期では、１日 30 分以内で２人まで家族の面会を可能としていましたが、感染が拡大する頃には面会禁止となりました（図5）。当院には脳卒中後遺症や神経難病、頚髄損傷などの患者が多いため、普段衣類や金銭の管理については家族に協力をしていただくことが多々ありました。そのため生活面の援助として、洗濯物の受け渡しを予約制にして（図6）、病棟スタッフが請け負うこととし、病院玄関先でやり取りをしていました。また、外来で窓越し面会を始めたり、一人ひとりのベッドサイドで患者の思いを傾聴したりして、家族に会えない辛い状況を少しでも軽減できるよう努めていました。

図４ 病室の環境整備

図５ 面会禁止の案内（後方に病院玄関の洗濯物受け渡し場所）

図６ 洗濯物受け渡し予約表、各種お知らせ

私たちスタッフにとっても、業務内容の変更や休憩時の３密予防を行うなど（図7）、今までとは異なる働き方になりました。今も予断を許さない状況下で、感染対策委員会が中心となり、新型コロナウイルス感染症患者が発生した場合の対応シミュレーションを実施するなど（図8）、万全を期して今後も患者の安全・安心と私たち医療従事者の健康管理に努めていくことが重要です。今後も、リハビリテーション看護を実践していく上で、変わらない早期回復への援助と新しい生活様式を融合させながら、より良い看護を創造 していきたいと思っています。

図７ 研修室を活用した３密予防

図８ 感染対策シミュレーション

認定看護師の活動

JCHO　湯布院病院　脳卒中リハビリテーション看護　認定看護師　長谷川　美帆

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を 2010 年に取得し、今年、２回目の更新審査を迎えましたが、全国的なコロナウイルス感染症拡大の影響により、審査が延期された状態にあります。

感染症対策に配慮しつつ、脳卒中を発症された患者さんに対しては、疾患や後遺症としての機能障害を抱えながらの生活の再構築に向けて支援を行っています。高次脳機能障害のある患者さんの看護の質の向上のために看護師に対して院内で研修会を開催しています。ご家族に対しては高次脳機能障害に対する理解・協力を得るためにパンフレットを作成して説明する取り組みを行っています。また、多職種で協働して日常生活動作の自立に向けた支援を行うとともに、病態や障害部位を踏まえた上で、再発予防のための疾患管理や生活指導なども実践・指導しています。

院外での活動としては、大分県回復期リハビリテーション病棟連絡協議会・大分脳卒中クリニカルパス情報交換会に参加し、脳卒中看護に携わっている他施設との情報交換・共有に努めています。大分県看護協会の開催する研修会では、脳血管障害患者の看護について講義をする機会も頂きました。さらに、大分県内の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師で協働し、地域住民に対して脳卒中市民公開講座を開催しました。

今後も、脳卒中看護の質の向上のために自己研鑽に努め、多職種と協働して、患者さんが自分らしく生きがいのある生活を再構築できるよう家族も含めて支援し、その生活を継続できるよう再発予防にも努めていきたいと思います。

施設紹介

一般財団法人みちのく愛隣協会
東八幡平病院　地域リハビリテーションセンター

看護部長　松浦　眞喜子

2020年コロナ禍において、保健・医療・介護に従事されている皆様が、みえない難敵コロナウイルスと闘い、お一人おひとりが使命感に燃え奮闘されていることと存じます。

一般財団法人みちのく愛隣協会　東八幡平病院でも、職員が一丸となり感染防止対策を講じながら、安全・安心な医療の提供に努めております。

一般財団法人みちのく愛隣協会　東八幡平病院は、県都盛岡市の北西に位置し、十和田八幡平国立公園やリンドウの産地として知られる八幡平市にございます。当院を取り巻く環境は、眼下に秀峰岩手山・八幡平を一望でき、東北地方有数の温泉郷であり、日本百名山八幡平トレッキングコース（八幡平ドラゴンアイは有名）や国指定文化財の特別天然記念物である焼き走り熔岩流などがあり、四季が織りなす自然が美しいことから観光客が絶えません。

当財団の沿革・概要は、昭和49年に財団法人みちのく愛隣協会が設立され、昭和53年東八幡平病院開院から言語療法・理学療法・作業療法、医療社会事業を開始しました。平成７年には介護老人保健施設希望を開設、平成11年に訪問看護ステーションのぞみを開設、平成13年回復期リハビリテーション病棟を開設し、地域リハビリ広域支援センターの指定を受け活動を展開しています。

当財団は「信頼と愛情」を理念とし、患者・家族を中心にリハビリテーション医療、看護・介護ケアを提供することにより、地域包括ケアシステムの推進とインクルーシブ社会の創生を目指しています。

財団が活動するにあたり５つの柱を「医療・施設・訪問と通所サービス、地域支援と地域活動」とし、その機能と役割を明確に活動しています。

東八幡平病院では、医療サービスの要として、病床数150床（一般病棟50床・回復期リハビリテーション病棟100床）で稼働しており、一般病棟には包括ケア病床８床を設け運営しています。

また、高齢化率が38%と高い地域であることから、行政からの委託事業に対応し、認知症初期集中支援チームを立ち上げ活動しています。

看護部では理念に基づき、活動方針を「在宅生活・地域生活を見据えたリハビリテーションの実践」とし、各看護単位が目標を掲げ活動を行っています。現在、目標管理にバランスト・スコアカードの概念枠組みを活用しており、各視点(顧客・財務・業務・学習）に評価尺度と目標値を設定し、実践した看護が可視化できるようデータマネジメントの強化を図っています。具体的には、リハビリテーション看護10項目宣言の排泄／食事／洗面などの基本的な看護実践をデータ化し、評価指標を用いて、結果を数値化しています。実践した看護の結果（数値化）をスタッフへフィードバックすることにより、経時的データに動機づけられ・自部署の情報や課題抽出などに繋げています。

今年度の新たな取組として、先にも述べましたように認知症患者が増加しておりますことから、リハビリテーションを通して認知症患者が、早期診断・早期治療・ケアに繋げられるよう、看護師による「認知症／物忘れ相談室」を外来に設け、活動を開始しました。

今後も地域から信頼され愛される病院を目指し、地域の期待とニーズに応えられるよう、柔軟な発想と変革力を持って、地域に貢献してまいります。

編集後記

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大は、多くの医療機関や施設にとって、これまでの病院運営に関するさまざまな方針ややり方を、瞬時に変えざるを得ない経験となりました。

働き方におきましても、COVID-19の影響を受け、ある一定の職員に、時間外がすごく偏っている病院も多々あると聞いております。職員の安全を担保しながら、過重労働にならないように配慮しつつ、運営を行う厳しさがあります。

次年度の人の確保にもCOVID-19が大きく影響し、学生さんの就職活動もできづらい状況下にあり、各施設でも様々な対応で乗り切っておられる事と存じます。ＷＥＢでの施設説明会や面接等、オンラインでのやりとりが増えてまいりました。管理者はこのような変化に即座に対応していく必要があり、柔軟性が問われるところです。

これからの時期はインフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行が懸念される所です。

本学会会員の皆様におかれましては、引き続き感染症に対する大変な状況の方も多いことと拝察いたしますが、ご自愛のほどお祈り申し上げます。

兵庫県立リハビリテーション西播磨病院　高濱　正子

VEGETABLE OIL INK　リサイクル適性Ⓐ　この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。